

課題解決型実践事業 オンライン開催

演劇ワークショップでみつめる「おやこのつながり」

令和2年度 新市民会館「みんなの劇場」整備 課題解決型実践事業



Zoom オンライン講座

1月31日 日 13:30~15:30

スケジュール

虐待予防・子育て支援に関わる方々に求められるもの

四国こどもとおとなの医療センター
児童心療内科医長 牛田美幸さん

劇場と社会課題

丸亀市産業文化部文化課
市民会館建設準備室長 村尾剛志

“そのまま”受けとめる支援
～何かを伝える前に、その人の心の景色を一緒に感じてみませんか？～

株式会社アズ 代表取締役 宗像佳代さん

ご参加のみなさまへ

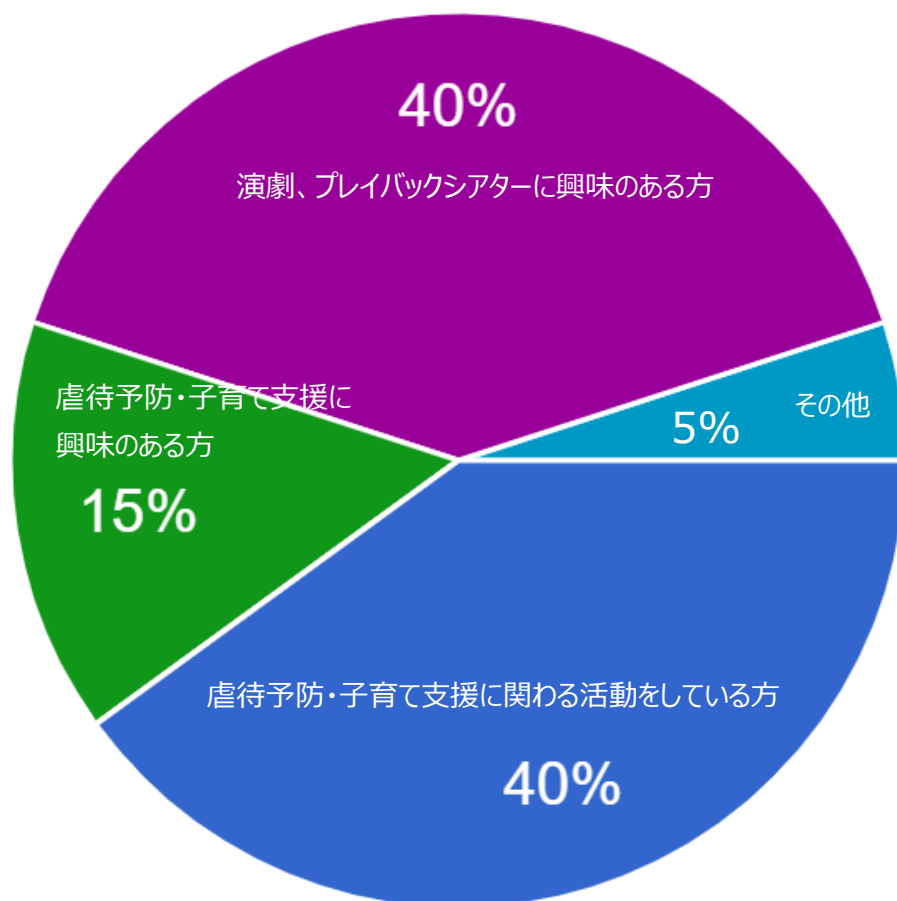
本日はご参加いただきありがとうございます。講座中のお願いです。

- ① 講座中の音声はミュート、映像はONとします。
- ② 講師より、音声・画面表示の変更をお願いする場合があります。
- ③ 名前は、申込時の名前を表示してください。
(事情があれば、「管理(ホスト)」まで、チャットでお知らせください。)
- ④ 講座の内容をレコーディングいたします。
(講演内容の一部を後日公開する予定ですが、参加者の映像や音声は編集時にカットします。)
- ⑤ 講座中、ブレイクアウトルームに分かれるワークもございます。
- ⑥ トラブル等がございましたら、チャットに入力し、「管理(ホスト)」へ送信してください。
お困りの時は、tel 0877-35-8708まで

チャットの使い方

チャットは画面下のチャット🗨️をクリックしてチャット画面を開き、送信先で「管理(ホスト)」を選択し、エンターキーを押して送信。

ご自身について当てはまるものをお選びください。

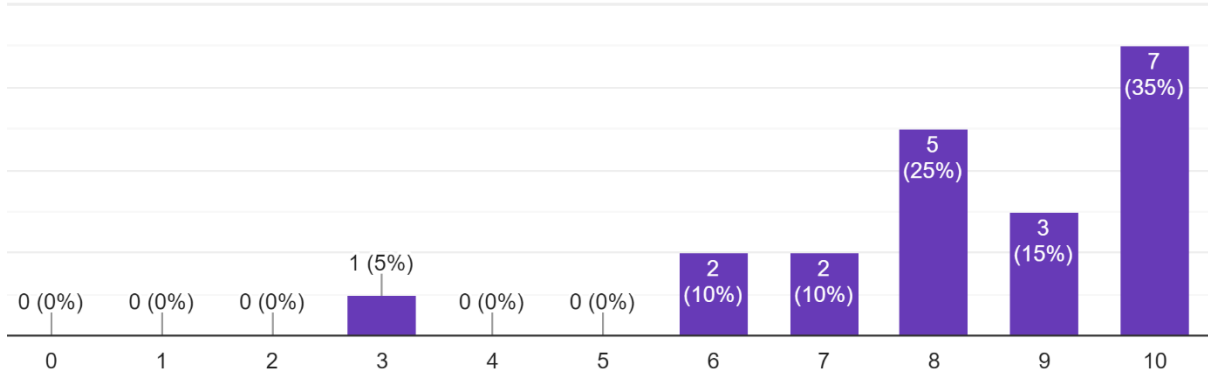


回答数 N=20

このワークショップに参加するにあたり、あなたが学びたいとあるいは得たいと期待されていたことは何ですか？

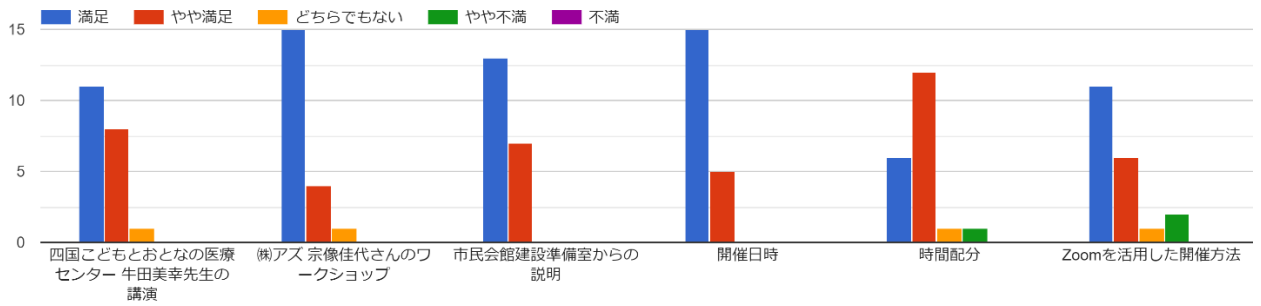
- ・虐待防止のためにできること
- ・身近に関わる子どもや親の助けになる何かを得たい。
- ・子育ての悩み？その支援はできないものか？
- ・おやこのつながり
- ・支援者としての在り方
- ・ワークショップの進行 その場に来た人をどうやって一つにまとめるのか。
- ・子育て支援について意見交換"
- ・おやこのつながりを創る視点について学びたい気持ちがありました。
- ・要約および作文
- ・プレイバックシアターとはどういうものか。どんな現場でどんなふうに生かされているか。
- ・プレイバックシアターをより深く学ぶことにより、必要な場で人に役立つ知識を得たいと考えました。
- ・虐待とされること
- ・虐待の背景、母親の気持ちへの理解。虐待をしている、しかねないくらい子育てに困難を感じて悩んでいるお母さん方にどうアプローチできるか。初対面同士のお母さん方が安心して気持ちを言える場、繋がれる場をどうやってつくれるか。
- ・プレイバックシアターの現実の支援での可能性
- ・プレイバックシアターの可能性について、牛田先生のお話
- ・支援のあり方、即興演劇の効果
- ・プレイバックシアターの可能性
- ・共生社会に生きる視点、感覚、考え方
- ・自分を認めたり、赦すにはどうすればよいか等、ヒントを得たいため。

前問の期待を 10 点としたら、受講を終えた現時点では何点と評価しますか。



回答数 N=20

今回のワークショップの以下の点に関して、どのくらい満足していますか。



回答数 N=20

本ワークショップに参加して学んだことや気づいたこと等を教えてください。

- ・聴き方の手法は非常に勉強になりました。
- ・虐待当事者の立場に立ち、理解していくことの大切さを感じました。また、分かろうという気持ちで聞くことができようやく少し分かることができること、分かってもらえる喜び等を体験を通して理解できました。
- ・聞き手は真剣に聞く（今までは聞けてなかったかも？）
- ・頭で考えていることを実際に話す事は難しいと感じた
- ・支援者としての前に、1人の人として、自分の気持ち感情に気づいていること、そして相手の心の景色を一緒に感じる事が大切だと再確認しました。
- ・そのままを受け止める。だれしも、まず、わかってもらいたい。
- ・「聴く」体験のよさを感じながら、その場にどのように親等を繋げていくのかというところに自分の中で疑問・今後の課題等を感じました。
- ・作文対策になると思います。
- ・事実だけにとらわれず、その背景にも目を向けたい
- ・相手の状況や気持ちなどを想像したい
- ・自分の気持ちにも気付く
- ・心の問題解決が大切
- ・そのまま受け止めるようにしたい
- ・自分の解釈や意見を出すというより相手の受け止めて欲しいと思うことは何か？ということに集中する
- ・なかなか踏み出せない人や声を出し辛い人の声を聞きたい
- ・まとまった言葉でなくても少しずつ出てくる言葉をひとつひとつ丁寧に受け止めたい
- ・続けやすい仕組みを考えたい
- ・その時その状況に応じて柔軟に変わっていくことも大切
- ・分かってもらいたい気持ち、それは自分も相手も同じだと思えると少し肩の力が抜けそう。
- ・支援者としての前に、1人の人として、自分の気持ち感情に気づいていること、そして相手の心の景色を一緒に感じる事が大切だと再確認しました。

・丸亀市のお話の中で、遅刻して登校する子供の事例がありました。表面だけでは計り知れないその子のせつない背景が広がっていて、つらくても言えない、我慢して生活している、そんな境遇にたたされていることまでわからないにしても、問題行動の手前にはそうせざるを得ない環境があるかもしれない、と一旦その子の目線でその子を善悪で教え込もうとしないのでありのままを受け止めることが大切なのだと学びました。

そうして、ありのままを受け止める方法として、人の話を正確に聴き取る即興劇ワークの時、日常会話で人の話を聞いているようで聞き流していて、「次こう言おう」とか「それはこうだ」「そうかなあ」とか、時には善悪心の中でジャッジしていたりして自分のものさしでバンバン

推しはかり、いかにその人のそのまま、ありのままの思いを受け止めていないものか…。ということに気づきました。

- ・集中力の欠落？他の事を意外と考えてしまっているなあ。私ったら、ワークで人と向き合って意識して覚えようとしているそんな時ですら！！なんて失礼なワタシ。。。と気づきました。
- ・真剣に話を聴く、ということは、ものすごく集中力がいることだと、感じました。そして『聞く』と『聴く』の違いがわかりました。
- ・ワークショップ形式で参加したことで、救いだったのは「他の方々も同じように感じておられる。良いことではないけれど、ちょっと安心。」と思った事です。でもでも、私「ここを意識して生活したい！おやこのつながりにおいても、仕事の中でも生活全般で」という気持ちが芽生えました。
- ・自分の話を語ってもらうと、自分の事を大切に思ってもらえているような心地よさを得られて満足したり、不思議と違う角度から自分が見えて客観視できたり、安定感が増したり・・・牛田先生の言わんとされていることが体感出来て、とてもプレイバックシアターという即興劇の影響は面白い！偉大だ！と思いました。
- ・会話の質が高まるとワークショップで初対面の三人の顔がぱっとあかるくほぐれるスピードが速い気もしました。

-
- ・虐待予防施策は、決して当事者の立場に寄り添えてない。
 - ・牛田先生の最後の言葉「虐待」は中立ではなく、悪で犯罪だという意味も含んでる。社会的な一つの切り口にすぎない。「子育て困難に陥っている人ととらえたらどうだろうか？」というところ。また、「自分がみんなから監視されてる人と思ったら、どう感じますか？」「申し送りなどのデメリットにも目を向ける」「あなたなら、まずは分かって欲しくないですか？」というのが印象的だった。どうその人をみるのか？その切り口、角度によって見えるものが全然違ってくると思った。リテルでは、はじめて同士でもなにかしら人により影響を与える力があると感じた。zoomでも、プレイバックシアターの劇が、次回はできたらとても嬉しい。

-
- ・メモを取らずに話に集中することの大切さ、ストーリーが繋がっていることの発見、伝えることと受け取ることの難しさ
 - ・牛田先生のお話、とても興味深く良い話だったんですが、もっと分かりやすく、内容を絞って伝えたら、もっと伝わったと思うので、「やや満足」を選びました。内容はとても素晴らしいと感じました！画面共有された書類が文字が小さすぎて読めず、どこを言われているのかわかり辛かったため、テキストなし、牛田先生の言葉のみで伝えた方が良かったように思いました。育児困難に至る母親の背景を想像し、まずわかろうとする。それがとても大事な事だと、自分自身もそう感じています。プレイバックシアターについては、とてもわかりやすく、体験もできて！参加してよかった！と感じました。
 - ・プレイバックシアターの可能性
 - ・語りなおしによる効果"
 - ・プレイバックシアターを通して絆が深まること。

- ・ワークショップを通じて、他者の思いを汲み取ろうとする際の意識の持ちようを具体的に体感でき、訓練することでより力がつくものだと気づくことが出来ました。
- ・一人ひとりの人生が抱える課題解決や悩みを度合いを軽減し光を当てていくための有効な取り組みであると感じました。

前問で回答いただいたことを、今後どのようなことに生かしていきたいか教えてください。

- ・ 日常の支援業務で活かしていきたいです
- ・ 我が子、身近な子、ママ友など、いろんな方の話を今までよりも丁寧に聞くことで人と繋がりを深め、広がっていきます。虐待防止や、しんどい方の支えに少しでもなれたら嬉しいです。
- ・ 今後の活動にいかしたい
- ・ 仕事
- ・ 今後リテルの手法をもっと活用し、繋がっていくようにしたい。
- ・ 人の話を聞く時に自分の頭でいろいろと判断しているし、こちらは何を言おうと考えがちですが、まず真摯に聴こうと思いました。
- ・ まずは、同僚等でできること、声なき声に耳を傾ける姿勢等を意識して一層取り組みたい。
- ・ 児童支援

-
- ・ 例えば子どもの活動、ワークショップ等で。困った言動、消極的な姿、など進めたい道筋から外れた子がいる時、つついマイナスな目線で見えてしまいがち。けれどそこにどんな気持ちがあるのか想像したり、受け止めるために何が出来るのか…ということを考えたい。
 - ・ 家庭内でのことにも生かせるかもしれない。
 - ・ 誰かが誰かを非難する時。強い口調で相手を非難する人がいたとして。そういう人を悪く思ってしまう。けれど口に出して言うことは受け止める機会のひとつかもしれない。納得できないは別として、そうなのね…と受け止めることはできる。
気持ちを吐き出しそれが伝わるだけでも少し軽くなることはありそう。考えや感覚は違っても、そういう部分では、相手も自分も同じだと思えば、敵対心を和らげられそう。

-
- ・ 支援者として存在する前に、まず一人の人間としてその人になったようにまず相手の気持ちを受け止める。それをしたのちに、はじめて、対処したり、相手の了解を得た上で問題点を他人に共有したり、という作業に入る。この流れが大事。その人の背景を意識せずして、出来事だけを追ってしまうのは根本的な解決策には繋がらないし、さらなる危険もあるんだ、解決策にばかり目を向けないように注意する。
 - ・ 子育て家庭への「寄り添い」の対応
 - ・ 虐待をしているお母さんをみる目が180度変わったように思う！すごく寄り添いたい、寄り添える自分に近づいたと実感する。その人のみてる景色を想像してみようと思った。
 - ・ 日常の業務、虐待をするお母さんの声にならない声を拾いたい
 - ・ 所属する団体で、プレイバックシアター公演を開催したいと考えてます。
 - ・ 支援時に応用していけないかを検討したい。
 - ・ もっともっとプレイバックシアターをみたいし、知りたい。
 - ・ 自身が住む地域での生活や、関わっているすべての活動に活かしていきたい。
 - ・ 少しずつ、プレイバックシアターに深く関わる機会を増やしていきたいと思います。

今回のワークショップや今後の事業に関して、ご意見・ご要望がございましたらご自由にお書きください。

- ・また、継続的に開催いただけるとありがたく存じます
- ・丸亀市さんの姿勢が素晴らしいと思いました。素敵な市民会館になりそうですね！丸亀市民ではないですが、応援しておりますし、楽しみにしております。良い機会をありがとうございました。
- ・継続は力なり
- ・牛田先生の資料も、保存しておきたいと思いました。
- ・とても有意義な研修でした。
- ・皆様の熱意に、力と勇気をいただきました。ありがとうございました。"
- ・続ける事が大事とおっしゃっていて、頭が下がる思いです。是非続けて行ってほしいです。今後も継続してワークショップがあることを希望いたします。貴重な機会を頂きありがとうございました。
- ・居場所作り
- ・プレイバックシアターのことには触れるのは初めてでした。参加する部分など、うまくできるかなという不安も少しありましたが、実際やって良かったです。思ったことをただ話すだけでもいいと思うと、気が楽になりました。難しいかもという思い込みのハードルを無くして、色々な人が話したり聞いたりする機会を持ち、それが続いていけるようになれば、と思います。

-
- ・プレイバックシアターという劇を用いて、心を丁寧にあつかってもらえることのこころよさを多くの大人、子供、みんなに味わって体感してほしいです。
 - ・『みんなの劇場』内で、プレイバックシアターのワークショップが定期的開催されることで、自分の気持ちを感じたり、人の気持ちを察したり、思いやったり、個々がそのままを受け止めてもらえる心地よさを体感することによって、気持ちが和んだり、仲間意識が強まったりする和がひろがって、やがては市全体の質までもが上がっていきそうだなあと感じました。
 - ・子育て中、介護中、また、人に教えたり救ったりする立場の方々、新任教員研修や部署改革等。対象は無限ですね。
 - ・リアルなワークショップ、リモートでの開催。会館には行けないけど、家から寝たきりならリモート参加できる人。そんな人にはリモートで。新設の会館内にはネット環境がととのったブースが設置されているといいなあと感じました。
 - ・もしも「ボックス」のような。。とあいまいな表現になってしまいましたが、家庭では条件が厳しい人向けに、他県とのワークショップに参加できる視聴覚コーナーといいますか、リモートでイベントに参加出来るブース、ふと心に浮かんだ景色を離れた環境の同じような立場同士で交わるようなパビリオン。そんな空間があるとステキだなと感じました。
-

- ・様々な対象者に対するワークショップを実施されており、これが未来の会館のベースとなるのかなと受けとめているが、実施の在り方や運営がどうなるのかなと、、、一方通行にならない取り組みが必要だと思います。
- ・ぜひ次回も開催希望です！次回はプレイバックシアターの劇が見れたら嬉しいです。牛田先生の講演も、プレイバックシアターも、集める対象やテーマをかえて、（貧困、ひとり親、里親、などなど、、、）でそれぞれ開催できたらすばらしいなと思います。ぜひ！！

-
- ・村尾さん、かよさんのお話はとてもわかりやすく、伝えたい内容がダイレクトに伝わってきて、本当に良かったです。また、参加したいと思います。貴重な機会をありがとうございました。
 - ・オンラインはどこからでも参加でき便利ではありながら、主催者の方々のご苦労されたと思います。大変ありがたく感謝しています。
 - ・グループセッションの場も貴重な体験でした。ただ、初めての方とのセッションで自己紹介の時間を数十秒ずつでも考慮し時間設定をして頂ければ少し雰囲気違ったのではないかと感じました。いきなり感は即興として意図的なものだったかもしれないですが、もしそうならその説明もしてもらえると納得できたように思います。
 - ・全般的に意義ある時間を持つことができました。ありがとうございました。

-
- ・是非とも、リアルでプレイバックシアターを体験できる企画をお願いいたします。